

小児がん化学療法後の晩期有害事象の調査研究

この度、大阪大学大学院薬学研究科医療薬学分野および大阪大学医学部附属病院小児科では、下記のような研究を行うことになりました。この研究では大阪大学医学部附属病院の患者さんのカルテから情報収集を行う予定です。データの使用について、ご協力いただきますようお願いいたします。

(1) 研究科題名

小児がん化学療法後の晩期有害事象の調査研究

(2) 研究組織

大阪大学大学院医学系研究科分子医薬学講座（兼 薬学研究科医療薬学分野）

大阪大学大学院医学系研究科小児科

大阪大学医学部附属病院医療情報部

大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学

(3) 研究の背景と概要

近年の治療の進歩により、成人のがんに比べて化学療法や放射線療法に対する効果が極めて高いことが特徴とされ、小児がん患者の70～80%は治るといわれています。一方、小児は発育途中にあるため、治療に由来する合併症がその後何年も経過してから現れることがあり、晩期合併症といわれ、長期にわたるフォローアップが必要です。

小児がん患者の治療後の晩期合併症に関する報告は少なく、その詳細はわかっていない部分の多いのが現状です。晩期合併症は成人後の人生のQOLに大きく影響する場合もあり、近年注目されてきています。

そこで、この度、大阪大学大学院薬学研究科医療薬学分野および大阪大学医学部附属病院小児科では、大阪大学医学部附属病院小児科でがん薬物治療を受けて長期フォローを受けている患者さんの晩期有害事象の実態調査を行い、成人後の晩期有害事象に対する課題と対策について検討することにいたしました。

(4) 研究の目的および意義

小児期にがん薬物治療を受けて長期フォローを受けている患者さんの晩期有害事象の実態調査を行い、それらに対する課題と対策について検討いたします。

(5) 研究の方法および期間

大阪大学医学部附属病院で2000年1月1日～2022年12月31日に小児期にがん薬物療法を受けた患者さんの診療記録より、処方薬、検査結果および臨床症状の記録を調べます。

研究期間：2020年1月21日～2025年3月31日

(6) 情報の開示とその方法

個人情報は特定できない状態にして、関連学会や論文発表により研究成果を報告いたします。

(7) 個人情報の取り扱い

電子カルテから抽出したデータは大阪大学医学系研究科分子薬科学講座に保管し、個人情報がわからないようにした状態で、大阪大学大学院薬学研究科医療薬学分野教授室の鍵のかかる引き出しに保管いたします。

(8) 連絡先

大阪大学大学院薬学研究科医療薬学分野 池田賢二 06-6879-8251

(9) 研究への参加を拒否する方法

データの使用に同意していただけない場合は研究に使用いたしませんので、上記連絡先までお知らせください。その場合もいっさいの不利益はありません。